

場所	京都府京都市
面積	2ha
活動目的	庭園を未来永劫適切に保全すると共にその文化的、自然的価値を広く国民に発信することを主目的とする。
サイト概要	当該サイトは、京都市の北部、大原の里の東側山裾に存する寺院の境内地で、杉檜の高木に覆われた敷地内に国宝「阿弥陀三尊」を擁する「往生極楽院」の他、宸殿、客殿等の堂宇が点在し、その周りの庭園と共に静かな佇まいを見せている。当該サイトでの寺院創建は寛和二年（986年）に遡り、爾来庭園は元来の自然性をできる限り尊重する形で整備・管理されてきた。庭園植栽にはサクラ類、カエデ類、シャクナゲ類、和製のあじさいなどが用いられ、下層は多種の草本類、杉苔で覆われている。池及びその周辺にはモリアオガエルなどの両生類が成育している他、昆虫類も多種確認されている。



土地利用の 変遷

当該サイトは、寛和二年（986年）に恵心僧都源信が父母の菩提のために「往生極楽院」が建立され、その後、保元元年（1156年）には梶井門跡の政所が設けられている。明治四年、梶井門跡の還俗の折、政所が寺院本坊となり、「往生極楽院」を含め「三千院」と称されることとなった。なお、建造物の周り是一千数十年の間、自然性を尊重する形で庭園が整備・管理され、現在に至っている。

サイト周辺の 環境

大原は古くから貴人や念仏修行者が都の喧騒を離れて隠棲する場として知られており、三千院に隣接して来迎院、勝林院、實光院、寶泉院等の寺院が立ち並んでいる。多くの参拝者、観光客を迎える場所ではあるが、風致地区、歴史的風土特別保存地区に指定され、風致、景観の改変は厳しく制限されている。また、これら寺院を含めて大原の里一帯は「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されている。

アピール ポイント

当該サイトは、京都の奥座敷と称される大原の里における文化の象徴的存在である三千院の境内地であり、一千年を超える浄土信仰の文化財と庭園景観の融合が多くの参拝者、観光客に深い精神的充足と教化を提供する聖地となっている。サイトの整備・管理にあたっては自然性を重視し、必要以上の手を加えず文化財と自然景観の融合に配慮している。また、池にはモリアオガエル、ニホンアマガエル等の両生類が、サイト外縁の川にはゲンジボタルが確認されており、サイトの管理においてはこれらの種の生育状況を注視している。

生物多様性の価値

価値（１）公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

【選定されている制度名】

「生物多様性保全上重要な里地里山」（環境省） 名称「大原の里」

【選定理由や内容】

（選定理由）
京都市の北東部、高野川の上流域に位置し、周囲を急峻な山々に囲まれた盆地上に広がる山里である。
比叡山の麓の扇状地性低地に形成された農地、山林が残されており、オオムラサキやミヤマアカネ、エノキ、クヌギなど里地里山に特徴的な動植物が確認されている。また、地域にはいくつも清流が流れ、良好な水辺環境が保たれていることから、多くのゲンジボタルが見られる。（基準１及び２に該当）

- 基準１：多様で優れた二次的自然環境を有する
- 基準２：里地里山に特有で多様な野生動植物が生息・生育する
- 基準３：生態系ネットワークの形成に寄与する



写真の説明：大原の里（畑、山）



写真の説明：大原の里（参道）

生物多様性の価値

価値（４）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

当該サイトは、スギ及びヒノキの高木に覆われた境内地で、点在する堂宇の周りが自然豊かな庭園となっている。庭園はできる限り元の地形、動植物を尊重する形で整備・管理されてきた。庭園植栽にはサクラ類、カエデ類、シャクナゲ類、和製のあじさいなどが用いられ、下層は多種の草本類、杉苔で覆われている。池及びその周辺にはモリアオガエルなどの両生類が成育している他、ゲンジボタルをはじめ昆虫類も多種確認されている。

【主な植生】

高木層は植林されたスギ及びヒノキで、サイト全体を覆っている。中低木は庭園にふさわしい樹木・灌木が大半を占めている。下層植生は天然の苔類（主にスギゴケ）と草本類である。

【確認された主な動植物など】

（木本類）スギ、ヒノキ、サクラ類、カエデ類、シャクナゲ類

（草本類）ハンゲショウ、カンアオイ類、ツユクサ、ギボウシ類、ヤブラン、ハギ類、ミズヒキ、シュウカイドウ

（鳥類）キジバト、コゲラ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ

（昆虫類）チョウ類：クロセセリ、キマダラセセリ、クロアゲハ、キタキチョウ、ウラギンシジミ、ヤマトシジミ、ルリタテハ／バッタ類：モリオカメコオロギ、ミツカドコオロギ、ツツレサセコオロギ、クサヒバリ、オンブバッタ／トンボ類：ハグロトンボ、オニヤンマ、タカネトンボ、オオシオカラトンボ／カマキリ類：ハラビロカマキリ／カメムシ類：ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、シマアメンボ、オオアメンボ／コウチュウ類：コクワガタ、ゲンジボタル／ハチ類：キムネクマバチ、トラマルハナバチ

（爬虫類・両生類）ニホントカゲ、ニホンアマガエル、モリアオガエル



写真の説明：弁天池上部モリアオガエルの卵塊



写真の説明：
樹上のモリアオガエル

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

サイトの林内には苔に覆われた庭や灌木・草本の多い庭があり、これらの庭内にはサイト北側の律川から水が引かれた水域（池や曲水）が造られている。

【確認された希少種】

これらの場所で、環境省レッドリストや京都府レッドリストに掲載された両生類2種、爬虫類1種の生息が確認されている。



写真の説明：サイト林内の灌木・草本の多い庭

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
(活動の目的) 寺院の庭園を未来永劫適切に保全すると共にその文化的、自然的価値を広く国民に発信することを主目的とする。 (活動計画の内容) 下記の通り年間を通じて庭園の草本、樹木等の管理、清掃等を実施する。 2月：寒肥実施 5月：モミジ等高木剪定 6月：サツキ・ツツジ刈り込み、枯枝葉の除去、病害虫の有無確認、弁天池の清掃・管理 7月：ミヤコフスレ、アジサイの剪定 9月：御礼肥の施肥、高木剪定 その他：年間を通じて苔類の生育状況の確認と清掃を実施。 (生物の生息環境への配慮事項) ・モリアオガエルの生息に留意して樹林の連続性を保つとともに、産卵に配慮して弁天池の周りの樹木について水面上に樹冠が掛るように管理する。また、モリアオガエルは水際の草にも産卵するため、水際部の形状や状態にも注意する。 ・弁天池に落葉などの堆積物が多くなりすぎると、水位低下や水質の富栄養化（溶存酸素やpHの不安定化）につながることから、弁天池の状況を見ながら、堆積物を取り除く等の管理を春期（3月から4月頃）に行う。 ・アライグマ・ウシガエル・オオクチバス、ブルーギル、アメリカザリガニなどの外来生物の侵入を監視し、発見次第駆除に努める。 (年間活動実施部署) 三千院門跡管理部	【モニタリング対象】 庭園の景観要素であるサイト内の動植物全般を常時観察する。特にモリアオガエル等の池及びその周辺の生き物については生育状況を注視する。また、令和7年度からはゲンジボタルの出現について記録する。 【モニタリング場所】 サイト全体 【モニタリング手法】 通常の庭園管理にあわせて観察。なお、モリアオガエル、ゲンジボタルについては観察の日時、場所等を記録する。 【モニタリングの実施時期及び頻度】 通年。ほぼ毎日。 【モニタリング実施体制】 三千院門跡管理部の職員で実行。なお、学識者等による協力の申し出があれば受け入れる。